

疾患名

透析関連アミロイドーシス

病気について

透析アミロイドーシスとはアミロイドという異常タンパクが全身、特に骨や関節に沈着し、痛みや運動制限などの障害を起こす病気で、全身性アミロイドーシスの一種です。特に長期透析患者さんにおいてβ2ミクログロブリンという蛋白の蓄積が原因となり、手根管症候群や破壊性脊椎関節症、骨嚢胞をきたします。

治療について

β2ミクログロブリンの除去効率を高める透析方法(オンラインHDF、ハイフラックス膜など)にて発症を予防します。発症した際は痛みやしびれに対して鎮痛剤を使用するなどの対症療法が行われます。さらに、蓄積したアミロイドを除去するための手術が行われることもあります。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：以下のa)～c)にあてはまる透析患者がβ2ミクログロブリン吸着療法の保険適用となります。必ず透析療法と併用します。

- 手術又は生検によりβ2-ミクログロブリンによるアミロイド沈着が確認されている。
- 透析歴が10年以上であり、以前に手根管開放術を受けている。
- 画像診断により骨嚢胞像が認められる。

アフェレシス治療の種類：直接血液灌流法（β2ミクログロブリン吸着療法）

回数：初回使用日を起算として1年間を上限とする。1クール1年の治療終了後は透析アミロイドーシスの病態に応じて延長が可能。